

## Core2Core プログラム 出張報告書

### [出張者]

山本 瑛祐  
早稲田大学大学院 先進理工学研究科 応用化学専攻  
黒田下嶋和田研究室 博士3年

### [訪問先]

UCLA (University of California, Los Angeles), アメリカ, ロスアンゼルス

### [滞在期間]

2018 年2 月17 日 (土) ~2018 年2 月21 日 (水) (4 泊5 日)

### [概要]

本出張では、UCLA (University of California, Los Angeles)のMiguel A. Garcia-Garibay研究室を訪れた。さらに、Joint Workshop on Solid State and Biological Chemistry between UCLA and Waseda University @ UCLAにおいて、研究内容に関して、口頭発表及びポスター発表を行った。

### [スケジュール]

2018 年 2月 17日：日本からロスアンゼルスへの移動  
2018 年 2月 18日：UCLA (University of California, Los Angeles)のMiguel A. Garcia-Garibay研究室への訪問及びディスカッション  
2018 年 2月 19日：Joint Workshop on Solid State and Biological Chemistry between UCLA and Waseda University @ UCLA  
2018 年 2月 20-21日：ロスアンゼルスから日本への移動

### [内容・感想]

本出張では、Garcia-Garibay 研究室を訪問し、光を利用した化学反応や、生物化学を取り扱う研究者達と交流した。本出張における主要な成果は、1. Joint work shop に参加したことによる研究の推進、2. UCLA という異文化圏における研究生活の一部を実際に聴講できた、という2点である。

Joint workshop on solid state and biological chemistry between UCLA and Waseda University においては、著名な研究者である Ken Hourk 氏や Yves Rubin 氏らが参加していた。彼らと議論して得られた知見の数々は今後の研究推進に役立つものであると確信している。また、研究発表において、内容が優れているのは勿論のこと、発表においても動画を駆使したりするなど、聴衆の関心を引く技術が際立っていた。これらの技術は今後の自身の

発表に取り入れていくべき重要なものであった。さらに、口頭発表終了後には、ポスターを利用した発表も行い、様々な議論を深めることもできた。これらの点から、本ワークショップは自身にとって非常に有用なものであったと言える。

また、workshop 時間外には、UCLA のキャンパスを見学し、学生や先生を含む様々な人々との懇親会を行った。キャンパスは非常に広大なものであり、日本では困難な規模での研究を行うことが出来る環境が整っていることを実感した。さらに、UCLA の学生と懇親会にて交流することで、日本の学生とは異なる思考回路で実験を進めているのだということを肌で感じる事が出来た。このような経験は実際に UCLA に出張へ行かなければ得ることのできない貴重なものであった。

#### [謝辞]

経済的援助を行ってくださった Core2Core プログラム、およびワークショップの開催に尽力してくださった早稲田大学および UCLA の方々に感謝申し上げます。